

# 令和5年度 洲本市自立支援型地域ケア個別会議 アドバイザー振り返りの会

---



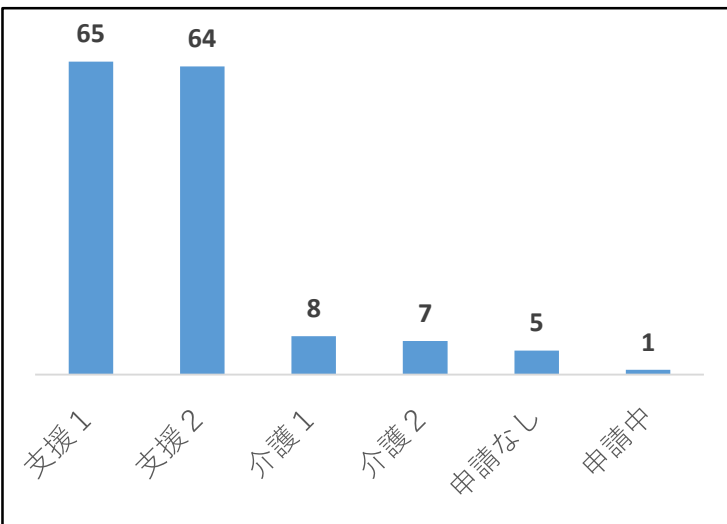
## R5年度洲本市自立支援型地域ケア個別会議（R6.1月末時点）

開催回数（回）	35回
検討件数（件）	150件

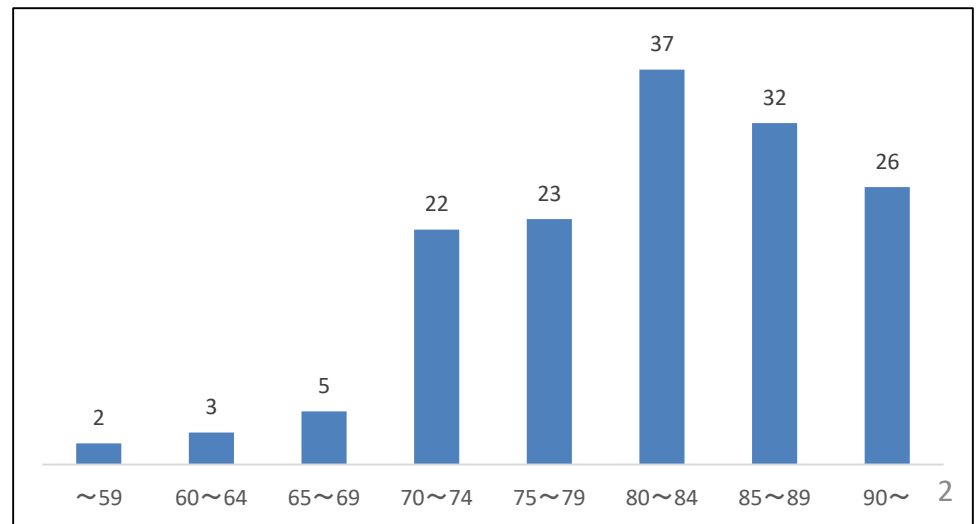
### R5年度事例対象者と事例検討数

- ①トライ教室利用者（70件）
- ②ヘルパー回数が多い事例（3件）
- ③新規ケース、継続で検討したいケース（要支援1～要介護1）（61件）
- ④生活保護受給者でケースワーカーが気になるケース（支援1・2）（7件）
- ⑤リハビリ教室利用者（5件）
- ⑥訪問相談、悉皆調査で気になるケース（0件）
- ⑦要介護1でデイケア利用者（4件）

### R5年度事例検討介護度（人）



### R5年度事例検討年齢（人）



# 会の中で出てきた課題

## ○難聴高齢者

- 難聴のため、家族や周りの方とのコミュニケーションが難しく、引きこもっている方が見受けられる。家族も補聴器を眼鏡屋等で購入してはいるが、合わないという理由で装用が進んでいない方も多し。  
それらの状況を踏まえ、在宅医療・介護連携第1回「すもトーク」にて、沖田耳鼻咽喉科院長 医学博士沖田純氏に「聴こえ」についての講演をしていただき、専門職が聴こえについての知識を深めた。

## ○身寄りのない独居高齢者の急変時の対応

- 身寄りのない独居高齢者が判断能力等低下した際の家や畑等について様々な制度をまずは専門職が知ることが大事であると考え、在宅医療介護連携第2回「すもトーク」にて、行政書士の船瀬剛史氏に、「生き方」と「逝き方」について対面で講話いただいた。

## ○パーキンソン病の方

- 事例の中で、パーキンソン病を患われている方も多し。同じ病を抱えている方たちが集える場があればよいのではないかと意見があった。

## ○地域資源の共有

- 由良に2件しかない病院のうち1件が6月末で閉院。また物部地区の買い物の場であったスーパーがR6.1月に閉店。  
下加茂に新たなスーパーが建設中等、資源の共有が出来たと共に、近隣の方への通院や買い物難民等が懸念される。

## ○80代独居の男性の暮らし

- 特に食事面の支援が必要な方が多し

## ○口腔の課題

- 少しずつ支援者の理解は進んできてはいるが、昨年実施した由良・上灘地区の悉皆調査の結果において、オーラルフレイルの可能性が68%と特に高い。専門職がより口腔の理解を深めるために、在宅医療・介護連携研修会にて、2回オンラインにて研修会を実施。

## ○認知症・精神疾患

- 認知症の症状があるが、認知症の診断がついていない方もいる。家族や支援者の早期発見や、つなぎ方等。  
また、精神疾患なのか、認知症なのか判断が難しいケースもある。支援者が対応に困る課題がある。

## アドバイザーからのコメント

- 自立支援型地域ケア個別会議で得た地域資源の情報等を勤務先の利用者に周知することができている。
- 自身の勉強の機会となっている。
- 地域をよりよくするための方法を考えていく必要がある。
- 今年度は比較的若い方（65歳未満）のケースが多かった。若い頃からの生活習慣は、高齢になってから変えていくのは難しいため、担当部署と連携し、若いうちから正しい生活習慣を身に付けていっていただくよう支援していくことが大切である。